

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホームほくとの家	評価実施年月日	平成20年9月21日
評価実施構成員氏名	三浦修始・藤原恭代・堀部住恵・畠山克則・貝塚恵美子・小田しのぶ・丸川琴・木村早江・松宮恵子		
記録者氏名	三浦修始	記録年月日	平成20年9月30日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>職員一丸となり基本理念を作り上げ、ホーム内、入居者居室にも掲示している。</p>		
<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>毎朝、夕の申し送り時に理念を読み上げスタッフ全員で共有できている。リネンの内容がケアプランに繁栄されケアに取り組んでいる。</p>		
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。</p>	<p>理念はホーム内、各所に掲示し、誰もが目を通せる状態である。家族には理念を書面で提出している。</p>		<p>入居者様の意見、家族の意見、気付きなどに早急に対応し反映されている。地域においては町内会会長、民生委員より地域の様子、環境、活動など伺い、ホーム全体で地域活動への参加ホーム誌の配布を実施している。</p>
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>小動物の飼育を通して近隣の子供、家族によるホームの訪問があり、また戸外でのくつろぎ散歩等により近隣との挨拶、語らいが持たれている。</p>		<p>日常的に近隣の人との気軽な挨拶を交わしている。(入居者様、スタッフ共に)</p>
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>町内会の行事<盆踊り>などには、入居者様と共にスタッフも参加させて頂いている。町内会主催の敬老会にも参加し、スタッフ、入居者様ともに行事参加が実現できた。</p>		
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>運営推進会議の開催。ボランティア、中高学生の職場体験学習の取り組み、近隣・他ホームとの交流。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	第三者からの視点で意見を頂き、早急に改善を要する事項の取り組み意見を考慮した改善策などに取り組んでいる。		
8 ○運営推進介護を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回の地域包括支援センター、町内会会長、民生委員、入居者、そのご家族、スタッフが参加し生活状況、入居者様のご意見、入居者の家族、他参加されている方々のご意見をいち早くサービスに反映されている。		
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	ホームの入居案内、ホーム月刊誌などを市役所、社会福祉協議会、地域包括嚙センターなどに配布し、設置させて頂いている。また介護についての討議が市役所内で月に何度か行われている。		
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	地域権利擁護事業や成年後見制度についてはパンフレット等を職員に配布しているが、特定の職員が活用し入居者様の為に支援している。		
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。	身体拘束廃止推進委員会や事故調査委員会を設置し2ヶ月に1回会議が開催され事業所内で議題に対し討議され防止に努めている。		
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居前に入居者本人、御家族に契約書、重要事項説明書について説明する際、事例に基づき詳細に説明させていただき、ホームにおける地域性についても話をさせていただいている。さらに質問も都度取り入れ慎重に行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>13 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>入居者様がご家族の意見、不満、苦情を苦情相談窓口として扱い、速やかに改善対応させていただき、その改善策をご家族に報告している。</p>		
<p>○家族等への報告</p> <p>14 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。</p>	<p>訪問する都度、または月に1度必ずホーム内の入居者様・職員の状況報告(ほくほくだより)と、入居者様の健康状態、金銭残高、領収書の提出を行っている。</p>		
<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>15 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>苦情、質問に対しては、ホームの改善の良い機会と受け止めている。管理者を含め全職員の対応のまずさを理解できる絶好の機会であると認識している。</p>		
<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>16 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>スタッフに対しては、都度個別対応を重視した全体会議、ユニット会議、役職者会議、合同会議等を通し反映されている。</p>		
<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>17 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>希望休、有給休暇等をしっかりと勤務に反映させている。また子供のいる職員に対しては子供の病気等も考慮しながら勤務対応している。</p>		
<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>18 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>利用者の生活に影響が出ないように欠員となった場合全職員がなじみの関係を構築してある事からダメージを防止する配慮はされている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職場内研修(新人、現職、役職者研修)を実施している。職員のスキルに合った外部研修にも参加してもらい、特に当法人は、自ら主催する研修も市内で実施している。		各種資格取得に向けた講習、研修の実施、参加を積極的にバックアップしている。
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	横のつながりを強化する為に、文書での呼びかけ(研修案内)情報交換に努め、特に自ら主催する研修にも参加を呼びかけ交流を深めさせていただいている。		
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	スーパービジョンの実施により本人の意見、思いの聞き取りアドバイスなどの助言を行い、心のうちに止めないよう環境改善に取り組んでいる。		
22 ○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	日々個々にあった技術の指導、内外研修の実施、小冊子による学習などを行い意欲を持ち出せるよう工夫をしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	毎週1回利用者会議と名打った会議を開いている。入居者様から不安、困っている事、してほしい事など本人より聞き、受け止めケアに反映されている。		
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	来訪時は特に心の中にあるものを引出し、不安解消につなげさせていただいている。来訪は貴重な話し合いの場面でもある。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談時は、社会資源である、フォーマル、インフォーマルの情報も取り入れ、ご本人とご家族の全体像を把握しながら支援体制を強化させて頂いている。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	なじみの関係を構築するために、しっかりアセスメントして、個人がすぐに集団生活になじめないことを理解し個別対応を重視し、家族の思いや入居前の情報を理解した上で関わりを深めさせて頂いている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	ホームで入居者様とスタッフが一緒に生活している事を念頭に入れ入居者様から学ばせていただいている。家事に関しても一緒に考え一緒に作り、ホームのあり方も一緒に考え常に一緒に作り上げている。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族が来訪時、様々な会話の中から家族の辛さも受け止め共に本人を支えていけるような関係を作っている。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	ご本人のみならず、ご家族の悩み不安についても傾聴させて頂いている。その事で家族になれないが家族以上のかかわりがご本人に提供できている。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	なじみの人は、家族以外では関係作りの支援が出来ていない。場所は出来る限り本人の思いを優先して支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	日常生活の中でお茶の時間の語り。楽しい言葉を掛け合いながらのリハビリ体操、外出時はお互いをいたわり合いながらの歩行、手助けなど共に支え合いながらの様子が伺える。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	事情があって退居された入居者様のご家族宅を訪問しホームの状況などを報告する事が最近実施されるようになった。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	週に1度入居者会議を開き入居者様一人ひとりの意見、思いを聴き取り職員が意見をまとめサービスに活かしている。		入居者様の心配事、家族に訴えたい事などなど思いのまま話せる場を作っている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	センター方式を活用しなじみの暮らし方を把握しているがサービスの利用経過までは十分とはいえない。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	朝の申し送り後一人ひとりの過ごし方、かかわり方を話し合い、スタッフ全員で把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	介護計画を職員全員で作成するという意欲を持ち、入居者様のできる事、出来ない事、手伝ってほしい事の情報収集をし計画書完成へ向け勉強会を行っているところである。		介護計画書を介護支援専門員の工夫によってオリジナルに作り直し職員全員で精神面、身体面について情報収集し、気付きボードを設置。全員が日常生活、ケア、その他気づいた事を表記し掲示している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	毎月担当職員がモニタリングし、介護支援専門員と共に見直しをしている。ユニット会議の中で一人ひとりのプランの見直しをスタッフとともにやっている。		モニタリングは毎月見直し、家族に書面でお渡しし意見を求めている。
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	気付きボードを活用し日々の気づきをメモに残し、情報を共有し、まとめたものを計画作成、モニタリングに活用している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	ホーム内外を通じ生活全般をご本人、ご家族の要望に応えながら多機能性を生かしながら支援を実践している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	運営推進会議を通して町内会、地域住民、民生委員、ボランティア団体、社会福祉協議会などの協力を得られている。特に消防署、教育部門では協力関係が強化されつつある。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	地域の他介護支援専門員の委員会があり加入しているが、その会議に新任の介護支援専門員は参加していない。今後年に2回程度は参加出来る体勢にはある。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	入居者様、ご家族の要望があり、後見人に対する手続き方法について地域包括支援センターを利用した実績がある。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	医療連携している病院より週1回の往診対応があり、また他科受診の時は、本人のなじみの病院、希望病院を尊重し受診対応している。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	年1回定期的に認知症の進行程度を主治医により診断できる様に支援体制が整っている。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	週1回往診時看護師の同席もあり健康管理指導を受けている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	ホームから病院に入院した際入居者様に対しなじみの関係を持続することを目的に毎日面会対応、時には必要に応じて食事介助などの身体介護も行っている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	ターミナルケアについては現在共有できていない。	○	ターミナルケアについての研修に積極的に参加し、スタッフのスキル向上に向け、さらにはマニュアル作成して実践して行く。(平成21年度半ばまで)
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	チームとしての準備はできていない。	○	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 ○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>このような事が発生した場合センター方式の一式を全てその方の情報として提供して行くつもりである。</p>		<p>いつでもセンター方式の台帳、介護計画、ケース記録、チェック表など個人情報提供できる環境にある。</p>
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 ○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>個人情報、諸書籍についてはスタッフ一同徹底管理している。</p>		
<p>51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>どのような状況においても入居者様本人にお伺いを立ててからケアを実施している。入居者様にあわせて、ジェスチャーなどを取り入れ、また閉じられた質問に対して意志が表現しやすいように努力している。</p>		
<p>52 ○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>本人の意志を尊重し一日の生活を送って頂いている。(今日は天気が良いですか○○さんどこかへ行きますか?)などの声かけがされている。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 ○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>2ヶ月に1回訪問理容を利用しているが、パーマをかけたいなどの本人の希望がある場合はなじみの店に行けるよう援助している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	入居者の希望により外食し、個々がメニューを見て自己選択できる環境にある。ホームでは自分の嗜好をリクエストし共に調理したり、後片付け、盛り付けを入居者と共に実践している。		
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	本人の好きなおやつ、飲み物はそのご本人のものとして預かり(許可を得て)食べたい時に提供できる様になっている。タバコを吸われる入居者様がいてスタッフと一緒に吸える環境にある(分煙)。飲み物の種類を増やし本人に選んで頂いて飲んでもらっている。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	本人の排泄パターンをスタッフが理解し、本人の意思を確認してから排泄介助をさせていただいている。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	希望時にいつでも入浴できる環境にある。入浴拒否のある入居者様には強制はしない。ジャグジーバスや本人の好きな入浴剤などを使用しリラックス出来る入浴の場になっている。		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	入居者様の生活習慣を考慮し気持ち良く安心して休息や眠りにつけるよう日常生活の中にアクティビティを積極的に取り入れる努力をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	ケアプランにもその内容が記載されている事から、一人ひとりの役割をスタッフが把握し支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	本人の買い物時には財布を本人に渡し支払いをして頂いている。自分のお小遣いの中で欲しいものが買いに行けるように支援している。		
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	ご本人の要望に沿うよう、買い物、外出を実施しており、気分転換、季節感を感じていただいている。またホーム近隣への散歩等希望に応じ個人と外出するなど支援をしている。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	社会資源の活用を特に重視しているので、パンフレットなどを入居者様とともに見ながら行きたい所を決めたり職員が情報提供し普段行けないところにも行っている。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	本人自ら電話をかけたいが、わからない場合(電話番号・使い方)寄り添い一部介助で通話されたり、代行したりの支援をしている。自ら便りを投函される場合や、相談事に関する援助なども行っている。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	訪問時は自室でゆっくり会話ができる様配慮したりホール内でもその場を提供しお茶などを飲みながらその時間を過ごして頂いている。		
(4) 安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止推進委員会を実施し常にケアのあり方を検討し身体拘束のないケアの取り組みを実施している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	全職員が鍵をかけないケアの実践に取り組んでいる。いかなる場合があってもしてはイケないと職員全員が理解している。(但し午後6時以降は外部からの不審者を妨げる為安全確保のために施錠している)		
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	入居者様の居室には必ずノックをしてから訪室させていただいています。夜間の訪室も安眠妨害にならないように巡回しています。ホールで過ごされている場合は必ずスタッフがひとり以上いる様連携を取っている。(転倒事故防止)		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	手の届かない安全な場所に保管している。また薬等は入居者様が目にふれない所(別室)保管、管理、確認をしている。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	個々の事故リスクの把握にはスタッフ一同努めているもののその対応に関してはスキル不足がある。	○	マニュアルを作成し1つ1つの事故防止の為勉強会を開催し取り組んで行く予定。さらに心肺組成法を実践で学ぶため消防署と連携し、研修が10月15日に行われた。また11月には事故防止の為の研修もホーム独自で開催することが決定されている。
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	対応の仕方のアンケートを実施しスタッフの理解度を得た。	○	急変マニュアルを作成し、理解を高めて行く。(10月に完成)
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	運営推進会議参加の町内会会長、民生委員を通じて協力を得られるよう働きかけている。		当ホーム主催のほくと祭りが9月6日に開催され町内会の住民100名ほどの参加時に、地域住民に周知活動と、ホーム入居者の特性と、役割更には、災害防災に協力していただくように呼びかけた。今年度の防火訓練は終了したが来年度は、夜間を想定した防火訓練を実施する事を消防署と確約している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	入居者のご家族については事実に基づき説明している。		特に身体的不利によるリスク。行動範囲が広い方へのリスクなど、入居者の特性別に家族にしっかり説明し、高齢の事も考慮に入れてもらい理解して頂いている。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日の食事量、排泄、水分、USのチェック表をスタッフが共有し、変化に早急に気付いている。また異常時も直ぐ管理者に報告し、対応できるしっかりとした流れがある。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	専門性のある職員の指導や処方箋に記載されている副作用、効果について理解できる様にセットされており、問題が発生した場合主治医に連絡がとれるよう連携が強化されている。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	チェック表を見て毎日の排泄状態を確認している。乳酸菌の入った飲み物やヨーグルト、バナナなどを状態に応じて提供している。水分量のチェックや毎日の体操も効果はある。スタッフは理解できている。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	個々にあった口腔ケアを毎食後できている。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	チェック表によって水分量、食事量の把握をし支援できている。(最低でも1000ml以上と決めている)栄養面は、メニュー表を管理栄養士に見てもらい指導を頂いている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染マニュアルがある。スタッフ、入居者様共に手指消毒に努めている。調理器具は夜ハイターによる消毒に努めている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	夜に調理用具のハイター消毒を実施している。冷蔵庫は定期的なハイターによる消毒を行っている。食材は賞味期限切れの確認をし、食材の仕入れは、魚屋、農家で仕入れも活用している。調理する人の手の消毒も徹底している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	ホーム周辺には、畑、庭などが作られており、野菜、花、草を植えてあり小動物が出迎え心なませてくれている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節を感じ取れる草花を飾る、置く等の工夫と季節を感じられる行事の工夫をしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファでゆっくり会話の場所があり、ウッドデッキで外の風を感じながら思いにふけたりといった場所がある。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居前の空室はクローゼットとカーテンがあるのみで入居時ご本人のなじみの品が搬入され落ち着いて生活できるようご本人とご家族にしっかり説明し配慮がなされている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
84 ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	日中居室の窓を必ず開け換気している。1日4回室温、湿度をチェックし対応している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	常時安全な環境を考え、整えている。個々にあった環境を考え工夫し居室作りを入居者様としている。問題があれば直ぐ対応している。		
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	混乱や失敗時はしっかり寄り添いタッチング、アイコンタクトなどの方法で非言語的コミュニケーションを取りながら安心して落ち着いてかかわりできる様に工夫している。		
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	利用者自らベランダに出ることを希望され体操、お茶、ボール遊び、語らいの場になっており、入居者様同士の語らいの場にもなっている。前庭の花畑、野菜畑は入居者の一つの楽しみになっている。		

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある <input type="radio"/> ②数日に1回程度ある <input type="radio"/> ③たまにある <input type="radio"/> ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族 <input type="radio"/> ②家族の2/3くらい <input type="radio"/> ③家族の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
96	<p>通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている</p> <p>①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ○③たまに ④ほとんどない</p>
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ○②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ○②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ○②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ○②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)事業所祭(ほくと祭り)に向け計画を入居者様と一緒に立て(メニュー、催し物)準備をしており、入居者さんが率先して練習に励み、入居者様との会議中で内容が決められ、ホーム全体で祭を作ってゆくことが出来た。当日は、地域住民や関係者がたくさん参加して下さい、その中で練習した入居者様の歌の成果が披露できた事は大変に良かった。さらに北斗1丁目にグループホームがあることの周知活動が出来たとは成功であった。